

「HSK 季刊わたぼうし」 第41号

発行者:わたぼうし連絡会  
発行日:1996年(平成8年)5月1日 '96 春号

第41号のテーマ 障害者の住宅を考える I

日本の政治を 斬っている茶の間

作：比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いが理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

## テーマ《障害者の住宅を考える I》

この原稿内容は、昨年の6月に金沢で行われた講演を取材したものです。講演者の転載許可をいただいていますので掲載します。

最近のニュース、新聞等で「バリアフリー」という言葉が多く出てきていますが、どういものかわかりにくいと思います。これを優しく解説していただきます。

皆さんが今住んでいらっしゃる家は、住みやすく快適でしょうか。また、皆さんの家に体が不自由な人や高齢者が住むとしたら、その人たちは住みやすいでしょうか。

今日のセミナーは、体が不自由な人や高齢者が快適で安心できる住宅とはどんなものなのでしょうか、一緒に考えていこうというものです。金沢市駅西に「バリアフリー・モデルハウス」というものがあります。皆さん、ご存じでしょうか?これは金沢市が平成4年に建てたものです。

### 金沢市モデルハウス担当者の説明

まず、このモデルハウスの基本設定について申し上げますと、お年寄り夫婦の世帯、車いすを使用する障害者の方と介護者が住むことを想定して建物が設計されています。

そのため、高齢者の方も、身体に障害のある方も、子どもからお年寄りまで誰もが安心して、快適に暮らせることを目的に建てられています。

このモデルハウスの大きな特徴は、段差をなくしました。そのため、車いすの人が一人で出入りできるようになっています。

モデルハウスの場所は、JR金沢駅から歩いて2,3分の所にあります。このモデルハウスに於いて、一泊二日の宿泊体験ができるようになっています。

申し込み、問い合わせは金沢市市民課で行っています。

・JR金沢駅から 徒歩3分 ・西インターから 車で20分 ・東インターから 車で15分

### 「安全快適・バリアフリーモデルハウス」

みずほ設計建築事務所 代表取締役所長

#### バリアフリーとは?

最近、よく使われる言葉ですが、どんなふうに考えているかを説明したいと思います。

「バリアフリー」という言葉は、昭和56年の「国際障害者年」の年ぐらいから使われ始めた言葉でございまして、もう一つ同時に「ノーマライゼーション」という言葉も使われています。

「ノーマライゼーション」というのは、「ノーマル(普通の)」という意味ですが、健全者以外の障害を持った人が普通の生活ができるように、という意味があります。

普通の生活をするときに、「バリアフリー」というのはバリエード(障害のある壁、邪魔になるもの)を「バリア」と言っています。「フリー」は障害、邪魔になるものを取り除く、「バリアフリー」とは邪魔になる壁を取り除いてしまうということ。

バリアフリーモデルハウスというのは、日本の住宅の中で極力邪魔になるものを取り除いてしまおうという意味。住宅だけがバリアではなくて、道路、一般の公共建築といろいろとバリアがある。そのような邪魔になるものを取り除いて、すべての人が本当に快適に過ごせるような住みやすい町や国々を作ろうというのが一番の目的ですが、この中で住宅について説明したいと思います。

このモデルハウスは、一応、車いすの方が自由に家の中を動き回れるように、という前提となっていますが、皆さんが見られると、いろんな不備が出てくると思います。というのは、一人一人全部使い方が違います。モデルハウスというのは、その中のある一部分しか想定できません。

それで、皆さんが実際に行って、実際に使ってみて「ここは高すぎる、低すぎる」などを決めてもらうモデルハウスであって、今、造られているものが一番良いというわけではありません。御自分に合わせながら見て欲しいと思います。

## 玄関の説明

車から降りてスロープをあがって家の中に入っていきます。スロープの勾配は12分の1とか15分の1ではありませんと、それよりも急だと非常に手が疲れて、車いすをこぎにくいと思います。ここは15分の1としてあります。意味は15進んだら勾配が1上がる、ということです。

玄関の戸は大きな取っ手が付いていますが、取っ手に手が行く前に格子戸にさわってから取っ手につかまるようになっていきます。というのは、戸が非常に大きいので、一気に戸を開けることは大変ですので、わざわざ格子戸にしてどこでもさわれるようになっていきます。入り口の幅は90センチとってあります。

## 寝室

今度は寝室ですが、一応二人での生活を想定して二つのベッドが置いてありますが、左麻痺の方、右麻痺の方とかどちらでも使えるように置いてあります。どんなふうにしてベッドに移るかは、ここへ来て試してみればどうでしょうか。その方の症状に合わせて金具などは取り付けし直すことができるようになっていきます。

## NDK

足元に灯りがついていますが、夜、危なくないように一晩中灯りがついていきます。

コンセントは普通床の近くあるものですがそうすると、かがまないといけませんので、かがまなくてもいいように高さを上げて付けてあります。

スイッチはワイドスイッチになっており、手のひらでスイッチを押せるようになっていきます。

## 台所

冷蔵庫は右の方向からも、左の方向からも開くことができます。右利き、左利き方がいるので両開きになっています。

台所はU字型になっており、流し台の下には車いすがすっと入るようになにもない空間があります。この空間から流し台の間はあまり高いと使いにくいですので、最低中で作ってあります。手もあまり高くないという中で作ってあります。

テーブルの上に食器等が置いてありますが、手の不自由な人が使いやすい食器ばかり置いてあります。普通の食器と違って、持ちやすかったり、おつゆなどをこぼさないように工夫した食器、スプーン、お箸が置いてあります。

このモデルハウスには手すりは付いていませんが、どこにでも手すりが付けられるように下地は全部、補強してあります。今は、車いすを中心に考えていますので、手すりは全部省いてあります。

洗濯機と乾燥機が置いてありますが、普通の洗濯機は高すぎて使いにくいですので、床に穴を開けて洗濯機を下げてあります。低くすることによって車いすのまま洗濯物を取り出すことができるようになっています。乾燥機も車いすで届くような高さに置いてあります。

非常口もあります。特別に大きめに作ってもらった戸です。既製品の戸ですと非常に狭くて出られないので、もしも火災などがあった場合にスロープで外へ出られるようになっています。非常時に安全ということが大事なので、必ず二方向に逃げられるようになっています。

## 洗面所

今度は、障害のある方に非常に大切な洗面、トイレ、浴室に行きます。

洗面所ですが、前に鏡があり、車いすで入れるように洗面台の下には何もないようにしてあります。20センチを超えない高さでテーブルのカウンターがあります。お化粧したり、いろんなものが並べられるようにカウンターは広めにとってあります。

鏡は家族全員が使えるように、下から上までが鏡になっています。わざわざ斜めにするというのは「バリアフリー」ではない。みんなが使えることが大切です。

トイレ

次はトイレですが、いろんな方がいろんな方法で使われると思いますが、トイレ自体は一般の所に売っている一般のトイレです。ウォシュレットになっていて、高さは42センチあります。一般の車いすの高さはだいたい41センチです。横につけないといけない方、バックで行く方とかいろいろあると思いますが、そのため右横が広く開いています。右の方へ車いすをつける方もいると思います。手すりは30度、45度、90度と角度を変えることができます。それは、一番良いものを見つけてもらうためにこんなふうで作ってあります。

## お風呂

次はお風呂です。お風呂場は本当に人によって入り方が違うので一つの例によって説明します。これはモデルハウスなので右からも左からも入れるようになっています。

ここで大切なことは、車いす、移乗台、お風呂の高さを全部合わせることです。

まとめ

一応、簡単に説明してきましたが、本当は実際に行かれて体験なされるとよいでしょう。今までの説明でこんなところが使いにくいとあっていただければよいのですが。

金沢市でモデルハウスの第一号を作りましたが、いろいろな方の意見を聞いて、またよりよいものを作ると言っていますので、皆さんの意見を金沢市へ出して欲しいです、と思います。

私もこのようなモデルハウスを設計させていただいたことによって、20件近く、住宅改造を手がけましたが、やればやるほど難しいというか一人一人の使い方が違いますので、もっともっと勉強しないといけないと思っています。皆さんはなかなかおっしゃってくださいませんので、仕上がってからここが不便と言われることが多いです。

ご自分の家を造る前によく、納得してから造られたらよいと思います。住宅の改造は一回造ったら簡単に変えられるものではないので、造る前に慎重に考えられたらよいと思います。

21世紀は高齢化の時代だといわれていますけれど、みんな一人ずつ吟味しないといけない時代になると思います。障害のある方も、ない方も、自立しないといけない時代になるらしいので、使いやすい家があるか、ないかで随分違ってきます。日本人が寝たきりの方が多かったのは、車いすの開発のおくれもあったのですが、日本の住宅は車いすで動けないのです。段差はありますし、出入り口は狭く、自由に動き回れないものだと思っていた節があるのです。でも、簡単な改造とか新築の時にちょっとした配慮をしておきますと、本当に自由に家の中を動き回っている方を何人も見えていますし、こんなに大切なものだったのかと、逆に今になってびっくりしています。

これからは益々皆さんの声を反映させながら、安くてよいものを造るようにしていきますと、今は非常に高いのです。このようなものは広がっていきませんので、私たちも頑張りますけれど、皆さんも声を大にして「ああしてくれ、こうしてくれ」と意見を出して欲しいです。

## お問い合わせは

金沢市バリアフリーモデルハウス (0762)32-4245

金沢市福祉サービス公社 (0762)60-0071

金沢市市民福祉部民生課 (0762)20-2278

## 自動券売機でのJRの割引制度

### 1. 取り扱いの趣旨

本取り扱いは従来からの割引制度を変更するものではなく、利用者の利便を目的として

乗車券の発売方法を一部簡素化することによって、乗(車)船の取り扱いを行うものです。

## **2. 対象旅客の方**

身体障害者福祉法及び療育手帳制度要綱に規定する身体障害者手帳及び療育手帳(以下「手帳」という。)の交付を受けている大人の第一種身体障害者または第一種精神薄弱者とします。

## **3. 適用範囲**

北海道旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、四国旅客鉄道株式会社及び九州旅客鉄道株式会社(以下「旅客会社」といいます。)の経営する鉄道および航路を対象の方が、介護者とともに、乗(車)船する場合に適用します。

## **4. 発売する乗車券の種類**

近距離用自動券売機で発売する旅客会社線相互発着となる片道の営業キロが10キロメートルまでの普通片道乗車券とします。

なお、第一種身体障害者及び第一種精神薄弱者が小児の場合及び営業キロが101キロメートル以上の乗車券等については、従来通り窓口で購入願います。

## **5. 改札等の取り扱い方**

(1)対象旅客の方が介護者の方とともに乗(車)船する場合は、自動券売機により目的地までの所用区間の小児乗車券をそれぞれ購入願います。なお、従来の窓口での乗車券購入も可能です。

(2)対象旅客の方には、割引適用資格の確認のため手帳の提示が必要となりますので、乗降に伴う改札の際、車内等の改札の際及び乗車変更等のため乗車券掲示の際には、旅客会社の係員に、乗車券と併せて、手帳の掲示をしていただきます。

なお、自動改札設置駅では有人改札を利用させていただきます。

## **6. 実施時期**

本取り扱いは、平成5年10月20日から実施します。

(ただし、北海道旅客鉄道株式会社においてはすでに平成5年4月12日から自動券売機設置全駅で実施されており、東海旅客鉄道株式会社においては平成5年9月1日から駅を限定して施行しています。)

## **7. その他**

以上の取り扱いは、実施に当たっての基本的な事項ですので、詳細については駅窓口等でお尋ね願います。

前回は、Windows95の講習会に行ったことを主に書きましたが、今回は私もWindows95を導入しましたので、実践的に書いていきたいと思います。

Windows95を使われている方はわかると思いますが、パソコンの電源を入れ、スタートボタンから設定(S)、コントロールパネル(C)を開くと車いすのマークのユーザ補助というアイコンがあります。

ここでは片手操作、視覚障害者に対する補助的な設定ができます。私もいろいろやってみましたが、理解するのに苦労しました。

ユーザ補助のプロパティ開くと、固定キーの設定、フィルタキー、切り替えキーの設定ができます。今回はこの3つを解説します。

#### 固定キー

固定キーの設定は、両手を使えない方に備えられています。固定キーはコントロールキー、シフトキーなどを同時に押せないユーザーのために備えられている機能です。この機能は例えば、小さい「っ」を入力する場合にシフトキーと同時に「つ」を押さなければならないが両手の利かない人には同時に押すことはできません。これを片手でできるように設定ができます。その他に以下のようなオプションがあります。

#### ショートカットキー

シフトキーを5回押すと、固定キー機能を有効にする。

コントロールキー、Altキー、シフトキーを2回押すと、そのキーのロックを有効にし、2つ同時に押すとロックを無効にします。キーのロックがされたときに、音を鳴らしたり、キーロックの状態を画面に表示させることができます。

#### フィルターキー機能

これは手のふるえる方が一度にたくさんキーを押さないようにする機能です。例えば「あ」を入力しようとする、一般の設定の場合ですと手がふるえて「あ」が一度に何十個と入力されます。それを防ぐためにある一定の時間はキーを押しても入力されないように設定する機能です。

この読者の方にもマウスを使えない方がいらっしゃると思います。私も普通のマウスを使うことができませんので、占いの水晶玉のようなボールを手のひらでなでるマウスを使っています。パソコンショップで何種類か売られています。

それでも、手が不自由でマウスを使えないユーザーのためにWindows95では、マウスのポインターをキーボードで操作できるように設定ができるようになっています。

切り替え機能は、capslock、numlock、scrollock、キーを押したときに音を鳴らす、鳴らさない、を設定します。ここでは、私の独断で書きましたが、読者の皆さんが工夫していらっしゃるいましたら、教えてください。

## 我ら仲間たち

### 「しひびの会」

### 地域住民・主婦

私たちの会は、子どもたちに人と人とふれあいながら、子どもの心を育て「絵本やお話し」の楽しさを知ってもらいたいと「お話し会」活動をしているグループです。活動を始めて、今年で12年になります。実際は図書館や児童館等で定期的にお話し会を開き、集まった子どもたちと共にお話しを楽しむ活動と、出張お話し会として子どもたちのいる学校や保育所へ出かけてのお話し会活動を続けています。私たち「しひびの会」が彩光苑のお誕生会にコスモス会の一員として仲間入りさせていただいて随分と日が経ちました。

長年通わせてもらって、今、改めて感謝の気持ちで一杯です。というのも、「誕生会おめでとうと皆さんを励ましに出かけているはずの自分が、いつも聞き手の皆さんから励まされ、元気ももらっているからです。」なぜか、彩光苑に出かける前は不安で一杯なのです。病気やけがと戦い、一生懸命リハビリに励んでいらっしゃる皆さんを前に何が語れるというのだろうか。こんな自分の語りを聞いてもらえるのだろうか、楽しんでもらえるのだろうかと心の中での葛藤があるのです。自分の自信のなさが、ためらいや不安になって心をよぎるのです。

でも、一歩苑に足を入れるや、私の不安は吹き消されます。つたないお話しを語り始めると、素直に喜んでくださりしっかり聞いて下さる皆さんの姿に胸が一杯になるのです。何度となく、こんな気持ちを繰り返し、今は一回一回の訪問が苑を取り巻く季節の花と共に心に浮かびます。そして人と人とのつなぎめになる「お話し」を大事に語っていきたいと思うのです。

心の問題が問われる現代社会、ささやかですが活動を続けていかななくてはと思うのです。活動の原点、人と人とのふれあいに立ち戻れる彩光苑での「誕生会」私たちの会にとってとても嬉しい、そして大事な活動です。皆さん、またおじゃまします。どうぞお元気で!

## みんなの広場

### 盲人のコンピューター利用について

### 地域住民・視覚障害

盲人のコンピューターについて述べたい。全盲の者がコンピューターを操作する場合ディスプレイの確認ができないため音声合成装置をつないで出力させている。また、ピンディスプレイと呼ばれる一行分の点字を出力する周辺装置を付けて確認することもある。

この場合、音声装置やピンディスプレイに画面の文字を出力させるプログラムがいる。具体的にはMS-DOSのソフト、音声化ソフト、日本語FEP、アプリケーションソフトという具合になるのではないか。

また、漢字を一文字ずつ確認する場合は読みの同じ他のものと区別する説明を付けている(三本川の川)。この音声化プログラムを作っているのは、ほとんどが個人でコンピータ

メーカーが自ら開発したのは少ない。

主に使われている基本ソフトは、MS-DOS6、2までとDOSVマシンでWindows95には対応していない。また、たくさんや出回っているアプリケーションソフトのうちどのぐらいのソフトが使えるのかわからないから。勇気を出して使ってみないと結果は出ない。パソコンが盲人に使えるようになって、今までできなかった文章を書くことができるようになった。それにパソコン通信もかなりできるので、今後、いろいろなことが実現すると期待している。本を自由に読めるようになったらいいのだが、その日はいつになるのだろうか。

## 東京のスローバスに乗って

## 地域住民・肢体障害

この一週間、私は長野県の自治労の研究集会に出て、それから東京で総会と集会に参加しました。その時に新宿にある戸山サンライズという国際障害者年に建てられた宿泊と会議室、食堂などが完備されている施設で、使用料も安くて済みます。

さて、この近くには医療センターがあり、また早稲田大学もありますが、ここから新宿駅に出るのにバスで行くことにしました。田中さんも書いているので詳しいことは書きませんが、乗った感想としてはガックリした。というのもバス停には低床バスとあったのでドイツの低床バスと同じなのかと思っていたのだ。はっきり言って日本の低床バスは別名スローバスという名が付くくらいだから、スローの乗車口である。

きっと外国の障害者がこのバスを見ると「日本の科学技術はどうしたのですか」といわれそうだ。観光バスは豪華に飾り付けてあるが、路線バスはまさしくサラリーマンを運ぶだけの箱という感じだ。

私たち障害者だけでなく、お年寄りや乳母車で子どもと出かける人たちにも都合のよいのは低床バスだと思います。もちろんけがや病気になった人たちも含めてすべての人たちにとって楽だと思います。ドイツの報告でも書いているのですが、歩道からバスの床まで15センチから20センチぐらいだ。バスの中は段が一つもない。その歩道と床の間をちじめるには歩道をもう少し高くするか、バスの車体を少し下げようになればよいかだ。

バスの車体ができるのは、すでにアメリカにある。技術大国日本はこうしたところに外国より遅れているといえる。これは、バスに限ったことではない。風車で発電を起こすためのシステムを日本の企業がつくり、外国に輸出しているが、日本ではあまり情報が流されず普及していないと思いますが、外国に売るための科学技術になっているだけで、もっと私たちの生活の中で役に立つようにしてほしいものだ。

### これからの原稿募集テーマについて

- ・私とパソコン（あなたとパソコンの出会い、利用方法。Windows95の体験談、このように工夫しています。こんな便利なソフトなど。情報を大募集しています。）
- ・私の介護体験（家族、施設での介護、行事、イベント等での介護体験を募集します。）
- ・住宅改造体験 最近のニュースでは「バリアフリー」（障害物をなくす）という言葉が盛んに使われていますが、自分の障害に合わせてどのように自宅を工夫していますか？教えて下さい。

### 編集後記

冬号の発行が編集委員の都合で春号と同時発行となりましたことをお詫びします。

毎日、毎日、パソコンとにらめっこして「HSK季刊わたぼうし」の編集を行っています。「Windows95」と相撲をとりながら、新しい発見をさがしています。

さて、今年度は「HSK季刊わたぼうし」の内容はもっと外へ出て行って新しい情報、発見を掲載したいと思っています。パソコンと相撲をとっていても、情報は入手できませんので外へ出て行って皆さんの声を聞きたいと思っています。(Z.O)